

～膵臓がん治療における光明～

今回は膵臓がんについてお話しします。ご存知のように膵臓がんは消化器がんのなかでは最も治りにくく予後の悪いがんです。2016年の膵臓がんの死亡順位は、肺、大腸、胃についで4番目で、年々増加傾向にあります。近年、がん罹患しても約62%の人が5年以上生存するようになったにもかかわらず、膵臓がんの5年生存率はわずか8%です。

がん治療では、手術、抗がん剤、放射線治療が3本柱ですが、この10年、抗がん剤治療の分野で進歩がありました。ゲムシタビン、ティーエスワン、アブラキサン、オキサリプラチン、イリノテカンなどの抗がん剤が膵臓がんの有効であることが証明されました。経口の抗がん剤であるティーエスワンは、膵臓がん手術後の再発予防および生存期間延長に寄与することが本邦の臨床試験で証明されました。さらに、最近の膵臓がん治療のトピックスのひとつは、がんが動脈や門脈に広範囲に接している場合、以前は切除不能とされてきましたが、有効な抗がん剤の出現によって、手術前に抗がん剤治療をおこない、動脈や門脈に浸潤したがんを小さくしてから手術をおこない、予後を著明に延長させることが可能な症例が出てきました。以前は手術の適応がないと判断されていた血管浸潤を有する症例のなかに、手術が有用である症例が出てきたことは、膵臓がん治療における光明のひとつと言えるでしょう。

膵臓がんは診断時に約半数が肝臓や腹膜などの遠隔転移を認めます。こういった症例の場合は、現在のところ手術の適応はなく、抗がん剤によってがんの進行をある一定期間遅らせることが治療の目標になっています。今後さらに有効な抗がん剤が開発され、遠隔転移を有する症例においても、手術を含めた集学的治療が有意義となる時代がくることが期待されます。

本年4月から連載いたしました「消化器センター便り」は今回をもちまして一旦お休みさせていただきます。次回からは緩和治療科科長の山川医師が担当いたします。引き続き宜しくお願い申し上げます。

インフォメーション

休診日のお知らせ

誠に勝手ながら8月10日(金)は病院休診日とさせていただきます。ご迷惑をおかけしますがご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

Medical News

2018年8月
Vol.134

Shinko Hospital

Contents

- 特集
診療科紹介：緩和治療科
- 開業医探訪
消化器センター便り④
- インフォメーション

■ 神鋼記念病院理念
公益性を重んじ、質の高い医療を通して、皆様に愛される病院を目指します。

- 基本方針
- 1. 快適な医療環境と医療設備を整え、安全で質の高い医療を提供します。
- 2. 患者さんの人格や価値観を尊重し、プライバシーを守ることを約束します。
- 3. 断らない救急医療を目指し、地域社会の信頼と期待に応えます。
- 4. 地域の医療機関や行政との連携を密にし、切れ目のない医療サービスの提供に努めます。
- 5. 高い医療技術を持った人間性豊かなスタッフを育成します。

社会医療法人神鋼記念会
神鋼記念病院

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町 1-4-47
TEL:078-261-6711(代表)
FAX:078-261-6726
URL:http://www.shinkohp.or.jp/
発行責任者：理事長 山本 正之
編集責任者：神鋼記念病院広報委員長 山神 和彦

講演会などの
詳しい情報はこちらから!!

神鋼記念病院 検索
http://www.shinkohp.or.jp/



特集
診療科紹介 緩和治療科

神鋼記念病院 緩和治療科 科長 山川 宣

■ 着任の挨拶

このたび、緩和治療科科長に着任いたしました。今後ともよろしくお願いいたします。

簡単に自己紹介をいたします。2000年に信州大学を卒業し、内科系医師を経て、聖路加国際病院緩和ケア病棟、六甲病院緩和ケア病棟で9年ほど勤務しました。近年、外来でのがん治療の場が増加していることから、より多くの患者さんの診療に携わりたいと、前職場、神戸医療センターにて緩和ケアチームを経験いたしました。

この度、神鋼記念病院の一員として、緩和治療を通じて、地域の皆さんのお役に立てればと存じます。

■ 緩和治療科新体制

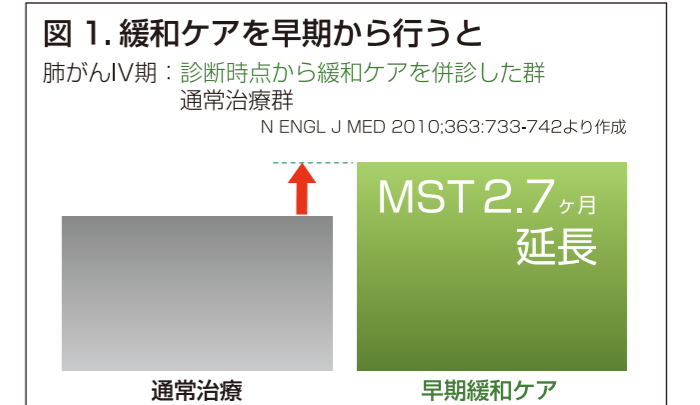
これまで、麻酔科出身の浅石が、緩和治療科科長に就任しておりました。このたび、若輩者ではありますが山川が科長として就任し、浅石と医師2名体制となります。さらに、多職種(がん看護専門看護師、薬剤師、他科医師、理学療法士、管理栄養士など)によるサポートチームにより、入院/外来の治療にあたっております。

■ 近年の緩和ケアの動向：非がんの緩和ケアへ

緩和ケアは、がんに対するターミナルケアとして端を発しました。そして、がんに対するホスピスケアとして歩みはじめ、その後終末期(ターミ

ナル)だけではない緩和ケアとして、ホスピスの名称が緩和ケア病棟に変わっていくようになりました。私が緩和ケアの道に入った頃です。がん治療中の方への緩和ケアチームも徐々に増えていきました。

2010年にNEJMに掲載された、早期からの緩和ケアの併用により4期肺がんの生存期間中央値(MST)が2.7ヶ月延長したとの論文(図1)から、さらに緩和ケアに注目が集まり、国策として緩和ケア・緩和ケアチームのさらなる推進が行われました。がん治療がこの20年で入院から外来に大きくシフトしたことから、緩和ケア外来への流れも生まれてきています。当院では、早期からの緩和ケアを意識して、「緩和ケア科」ではなく「緩和治療科」として入院・外来診療を行っております。ただ、全国でも緩和ケアを専門的に提供する外来は不足気味です。



2025年の多死社会（高齢者の増加により死亡者数が非常に多くなり、医療需要のひっ迫が懸念される社会状況）を見据え、がんへの緩和ケアについては、この間の地域とがん治療病院の連携の模索を経て、制度的にはおおよそ整備された状況です。

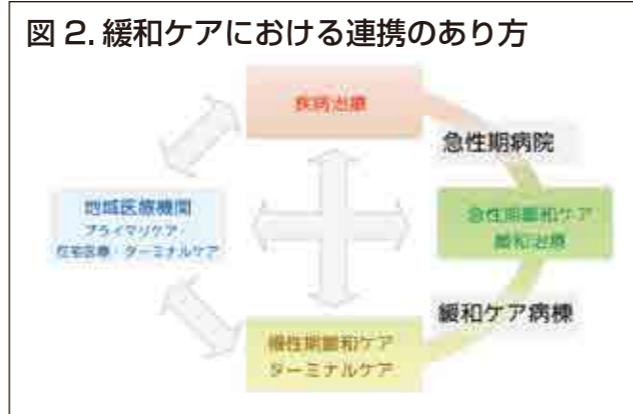
しかし一方で、有病率の高い循環器疾患・呼吸器疾患の進期～終末期のケアは未だ十分ではありません。とくに循環器領域では「心不全パネミック」といわれる危機的状況が叫ばれ、がんを端を発した緩和ケアが、日本でも非がん領域、とくに循環器を対象を広げ始めています。本年度から緩和ケアチームの保険点数において、これまでがんとAIDSのみだった対象疾患に進行した心不全が追加されました。

緩和ケアは、入院から外来・在宅へ、終末期から治療全体へ、がんから全ての疾患へ、これらが求められる時代になってきています。

■ 当科の役割

当院のみで目標を達成することは不可能なため、抗がん剤・重症循環器病などの、高度な疾病治療は急性期病院で行い、退院後は地域の医療機関である開業医・往診医の先生方とシームレスに連携すること、および急な入院が必要になった場合には、緩和ケア病棟・急性期病棟、両者が協力して最適なりソースで療養を担当できる

ことが重要と考えています（図2）。また、これらは一方通行ではなく、病状の変化と、患者さん・ご家族が安心と感じる場所の変化に合わせて、柔軟に対応できるような態勢を目指します。



■ 重点項目

これまでも当科は、がん治療の支援を主軸に、急性期病院での症状緩和を行って参りました。今回、緩和ケア病棟出身の山川が加わったことにより、以下の点を強化して参ります。

■ 急性期病院である当院で、緩和ケア病棟で行うようなより専門的な緩和治療・ケアを疾病治療と並行して行える体制の構築

がん治療中はもとより、いったん地域の医療機関に逆紹介いたしました患者さんが、緩和的な入院治療が必要になった場合、もとの主治医と

協力して可能な限り入院対応を行い、緩和ケア病棟での症状緩和に劣らない専門的な緩和治療・ケアの提供を目指します。

■ 多種多様な医療用麻薬の適正使用の推進

近年医療用麻薬の種類増加および鎮痛補助薬などの多数の緩和治療薬の発展があります。しかし、処方制限・適応外・副作用などの観点から、専門的な知識が必要な薬剤も増えていきます。院内外を問わず、これらの適正な使用を推進して参ります。

■ 非がんの緩和ケア態勢の構築

当院は、比較的規模が小さい333床ですが、神戸地区でも循環器のアクティビティが高いとの評価を頂いています。循環器領域の緩和ケアは喫緊の課題となっており、既に今後の体制構築に向けて協働を始めています。

■ せん妄対策チームの結成

高齢化社会の進行により、入院患者さんのせん妄合併率も高まっています。ひとたび発症すると、入院期間の延長・医療安全上の問題が発生しやすくなります。当院は精神科医師の常勤はおりませんが、緩和治療科および医療安全管理室が協働して、今年7月よりせん妄対策チームを結成いたしました。山川

は前病院でもせん妄対策チームの立ち上げに関わっております。その経験を活かし、より安全でご本人・ご家族にとっても安心・苦痛の少ない入院生活を送れること、一日もはやく治療の進展により地域に戻れることを目標としていきます。

【ご依頼方法】

緩和治療においてご相談があれば、当院からの紹介患者さんについては、主治医を通じて、当院からの紹介患者さん以外については、地域医療連携室を通じてお問い合わせください。

現在、入院加療が必要な患者さんについては、現在当院に主科がある方に限定させて頂いております。また、ペインクリニックは行っておりません。併せてご了承ください。具体的な患者さんのご相談以外に、緩和治療における薬剤等のご相談があれば、いつでもご連絡頂ければと存じます。

地域の皆さんに安心して患者さんを当院にご紹介して頂けるような体制の充実を、緩和治療科は目指します。よろしくお願ひ申し上げます。



開業医探訪 vol.40

◎診療を開始されてどれくらいになりますか？

前医の場所を継承する形で、平成19年に診療をスタート致しました。今年で11年目に入ります。

◎どのような患者さんが来院されますか？

駅前ということもあって仕事帰りに来院される方が多いです。また、私自身が女性ということもあってか女性の方に多く来院頂いています。そして、英語対応がなんとか可能ですので外国人の方が多くのも特徴です。診療内容については、一般内科に加えて循環器が専門ということもあり高血圧や不整脈関係も多いです。

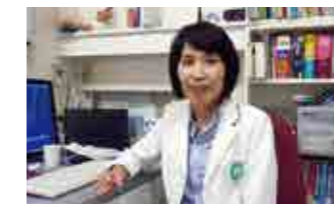
◎診療にあたり心掛けていることは何ですか？

患者さんの病気や治療方針・投薬などについて自身の考えている内容を説明のうえ治療

開業医探訪も40回目を迎えることができました。今回は、JR灘駅前にありますオレンジ色の看板が目印の「おがわ内科クリニック」を訪問致しました。



施設名：おがわ内科クリニック
住 所：〒657-0835
神戸市灘区灘北通10丁目1番3号
甲南グランヴェルジュ灘101号室
TEL：078-805-3282
院 長：小川 秀美



<診療時間> 診療科：内科

	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00～12:00	○	○	○	/	○	○	/
16:00～19:00	○	○	○	/	○	/	/